

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代による経済対策と金融政策による円高是正や株価が安定的に推移したことから、輸出企業を中心に企業収益の改善や消費税増税前の需要の前倒しなど、景気回復の兆しが見られました。一方、新興国での経済成長鈍化、原油高の影響による原材料価格の高騰、消費税増税の影響など、依然先行き不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループでは、新製品の開発や新規顧客の開拓など販売活動を強化するとともに原価改善、生産性の向上など収益改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、関連事業での需要の取り込みと前連結会計年度末より連結の範囲に含めた在外子会社の売上高の増加により286億4千9百万円（前年同期比15.6%増）となりました。

損益面につきましては、原材料等価格の高止りの影響があったものの増収効果により営業利益は8億3千2百万円（前年同期比91.9%増）、経常利益は海外関係会社の業績拡大や円高是正など持分法による投資利益の増加により23億4千9百万円（前年同期比71.0%増）、四半期純利益は20億4千7百万円（前年同期比73.3%増）となりました。

セグメント別の業績の状況は次のとおりであります。

#### ① 塗料関連事業

当セグメントの業績につきましては、顧客ニーズに合致した新製品の開発による新規顧客の開拓と省エネ対策など環境対応型塗料を主力とした売上拡大を行うとともに原価改善、生産性の向上に取り組ましました。

品種別売上高につきましては、建築・構築物用塗料のうち、床用塗料は前年同期比5.0%、防水用塗料は11.5%とそれぞれ堅調に増加しましたが、屋根材は前年同期比△4.4%減少しました。航空機用塗料は、塗り替え需要増により前年同期比21.6%増加しました。また、工事関連売上高では消費税増税前の需要増など集合住宅大規模改修工事の受注拡大により前年同期比65.4%と大きく増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は126億3千万円（前年同期比22.8%増）、セグメント利益は5億4千4百万円（前年同期比71.7%増）となりました。

#### ② 自動車製品関連事業

当セグメントの業績につきましては、国内自動車生産は前年度のエコカー補助金終了からの回復とともに消費税増税前の需要増により売上高は増加しました。一方、損益面につきましては生産性の改善、コスト削減に取り組んだものの原材料等価格の高止まりの影響で収益改善では厳しい状況で推移しました。

品種別売上高につきましては、在外子会社の売上加算もあり制振材は前年同期比10.7%増加、吸・遮音材は15.4%とそれぞれ増加しました。防錆塗料では前年同期比6.8%増加しました。また、材料輸出等のその他売上につきましては、ほぼ前年同期並みとなりました。

この結果、当セグメントの売上高は160億8百万円（前年同期比10.5%増）、セグメント利益は2億8千3百万円（前年同期比153.2%増）となりました。

### ③ その他

保険代理業の売上高は1千万円（前年同期比1.7%減）となりました。

（注）各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高消去後の数値を記載しております。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ77億2百万円増加し、464億6千5百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加24億1千万円、有形固定資産の増加8億3千8百万円、株式市況の回復等による投資有価証券の増加41億1千万円によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ32億8千1百万円増加し、207億7千6百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加17億2千4百万円、借入金の増加3億1千6百万円、固定負債その他の増加7億5千5百万円によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ44億2千万円増加し、256億8千8百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加18億2千4百万円、その他有価証券評価差額金の増加16億2千2百万円、為替換算調整勘定の増加6億1千1百万円によるものです。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は8億4千7百万円であります。

## (5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

## (6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい増減はありません。

## (7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。